研究期間
R6～R10

相手を知り、効果的な対策と保全を

～大型哺乳類の保護管理にむけた個体特性および個体群構造の解明～

長野県環境保全研究所 自然環境部

人にとって安全な暮らしと健全な野生動物個体群の維持を両立するには、地域の実情と法律（鳥獣保護法）に基づいた保護管理計画の立案が必要となります。本研究では、対策現場と計画立案の両方に研究成果を提供し、”科学的根拠に基づく被害対策と野生動物の保全”を支援します。

なぜ研究が必要なの？

- 現状　人口減少と野生動物の分布拡大により獣と人の距離が近くなったことで、人にとって安全な暮らし、健全な野生動物個体群の維持、その両方が脅かされている。
- 課題　大型哺乳類との適切なすみ分けによる、県内の農林水産業の維持、住民の安全確保及び地域社会の維持が課題となっている。
- 目的　被害の大きな大型哺乳類を対象に、被害軽減と健全な動物個体群の維持に資する科学的情報を提供すること。クマやシカ、カモシカ等からの試料収集と化学分析、行政資料等を用いた統計解析、これらの成果を行政計画や対策現場に還元することである。

どうやって研究するの？

①野外調査

高山・被害地等で行動や痕跡を記録

直接観察や赤外線カメラで記録

②捕獲個体を分析

サンプル収集し化学分析

- 捕獲日時
- 加害対象
- 捕獲場所
- 性別や体重

報告書から情報を収集

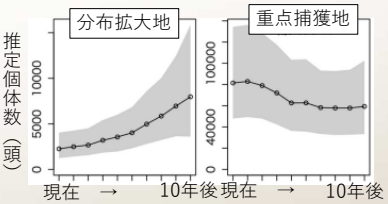
③パソコンで計算

①による野外データ
②による分析データ
行政データ

捕獲の影響評価
個体数の増減
個体の食性変化
森林の植生変化

どんなことが分かりそう？

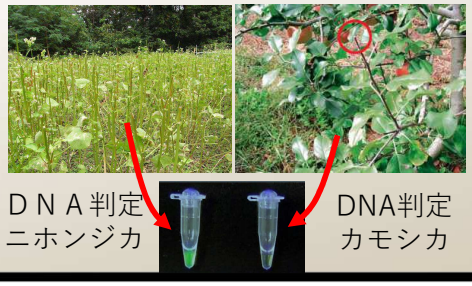
数年先のニホンジカの生息数



ここから増加傾向

適切な捕獲圧により減少傾向へ

農業被害地におけるカモシカ被害地の割合

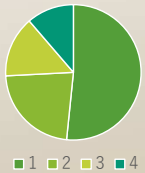


DNA判定
ニホンジカ

DNA判定
カモシカ

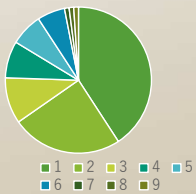
捕獲下での遺伝的多様性

捕獲中程度



4 系統

捕獲少



9 系統